



年頭所感

会長 阿部 明德

平成五年の年頭に際し、謹んで大御代の弥栄を祈り奉ると共に、本会の躍進と会員諸兄のご健勝を祈り上げます。

本年は、本宗と仰ぎ奉る神宮の第六十一回式年遷宮が斎行される年であります。この輝かしい年を契機とし、神明奉仕、伝統護持の使命感を一層強く持ち、活発な青年運動を繰り広げ、斯界の期待に応えたい所存であります。

神恩に感謝し神棚をまつり、家庭祭祀を行わしめることは、氏子崇敬者に対する教化育成活動の具体的目標の一つであります。

このことに関連し、昨年、神宮御当局から神宮大麻全国頒布百二

十周年を記念して、本会が行う活動に対する表彰を受け、さらに、「御遷宮啓蒙葉書」の制作・配布活動に対して、神道青年全国協議会から優秀事業表彰を受けるなどの榮譽を授かりました。

偏に、先輩皆様方の積年のご努力の賜と存じ感謝を捧げますと共に、関係各位のご支援ご協力、並びに会員諸兄のご尽力に敬意を表する次第であります。

さらにまた、東京都氏子青年協議会が創立以来二十五周年を迎え記念大会が開催されたことの意義は深いものでした。わが国古来の伝統である敬神崇祖の美風を青年に昂揚することを目的に展開され

第四十八号



第六十一回 神宮式年遷宮

国民総奉賛・総参宮を

る氏青運動は、本会との連携を保ちつつ、広く青少年教化にも尽力され、常に神社界が大きな期待を寄せるところであります。

しかしながら、時局はいよいよ多事多難の様相を加えております。天皇陛下、皇后陛下には昨秋、隣国中国へ行幸啓遊ばされました。日本政府の屈辱的対応や中国共産政府の始終一貫した反日的言動から御渡航を憂慮し、政府に対して御延期を求める国民の声が高まったのは周知の通りであります。

そしてこの機に乗じた新左翼の暴力組織が神社への侵害を繰り返すし、直接被害は全国九社に及びました。さきの大嘗祭関連の警備同様、日常の防犯に留意し、境内照明の増設、情報伝達などの対応に努め、神域尊厳護持の徹底化を実践する姿勢が厳に求められます。

かの中共文革を模した破壊暴力

行為の元凶は、敗戦と現行憲法成立を以て革命とみなし、それ以前の歴史も伝統も否定する上に築かれた偏向教育であり、戦後日本の思想の対立と共に、祖国の運命に暗影を投げかけています。青少年は、一国の未来を担う尊い存在であり、その魂を遠い祖先の心のふるさとに結びつけようという努力の重大さを改めて痛感します。

今日、時代の要請として国際化が問われています。その本質が、民族のアイデンティティーを持ち、祖国の文化、伝統精神を認識した上での国際交流であることから、若者の間の神道に対する関心の高まりが注目されています。斯道興隆のため、会員諸兄の一層のご健闘を期待致します。

沖縄県神道青年会創立十周年並びに 沖縄本土復帰二十周年記念事業

共催 沖縄県神道青年会
神道青年九州地区協議会
神道青年全国協議会

沖縄での慰霊祭に 会員八名が参列

第二十回神道青年九州地区協議会研修会、沖縄県神道青年会創立十周年記念式典が六月十日、那覇市若狭の神宮会館で、翌十一日に



は沖縄本土復帰二十周年記念慰霊祭が那覇市奥武山町の沖縄県護国神社で全国の神青会員が奉仕して斎行され、阿部明徳会長をはじめ都神青会会員八名が参加した。参加者は、東京都の慰霊塔に参拝。原色も鮮やかな南島特有の花や神酒を奉り、戦没者を偲んだ。

沖縄県神道青年会創立十周年記念式典（沖縄県神青会主催）は研修会に先立って十日午後二時三十分から行われた。沖縄県神青会は本土復帰後十年目の昭和五十七年に発会している。神宮・皇居遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和のあと、沖縄県神青会・澤岨 謙会長が「本土復帰二十年の今年、沖縄は全国から

注目を集めている。発会当時六名だった会員も二桁になり、来年の全国植樹祭での天皇陛下行幸にむけ奮闘努力致します」と式辞を述べた。

記念表彰では、沖縄県神青会発会当時の神青協会長・南坊城充興氏、県神青会初代会長・新垣義夫氏が記念表彰され、表彰状と記念品が贈られた。

末安大孝県神社庁長、吉川通泰神青協会長、本田光曠九州地区会長、南坊城充興氏、新垣義夫氏らが来賓祝辞のあと、式典は聖寿萬歳三唱で閉会した。

御嶽信仰は極めて類似

第二十回神道青年九州地区協議会研修会（九州地区主催）は、約十五分の休憩後、午後三時三十分から始まった。

開講式のあと、喜舎場一隆琉球

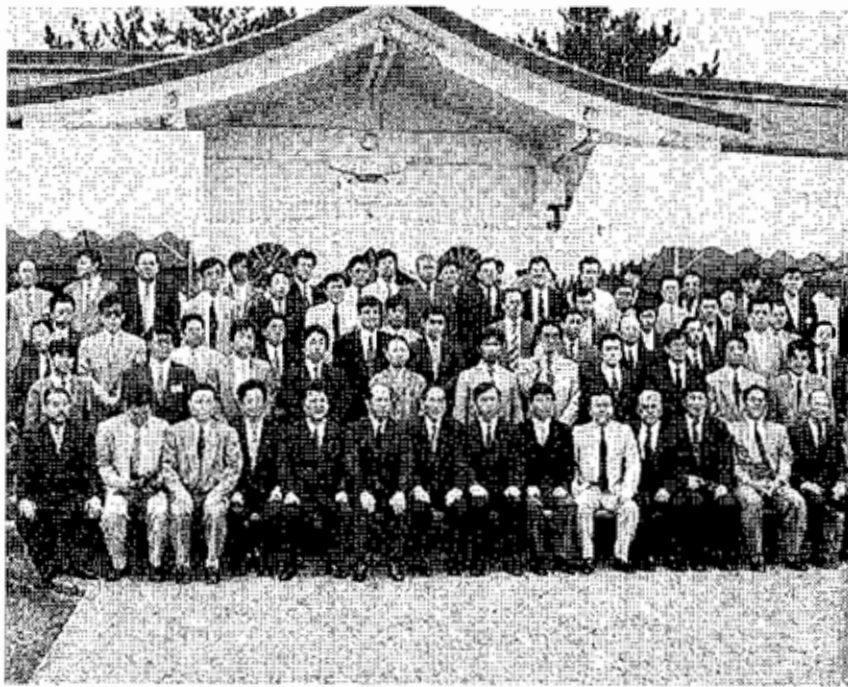


大学教授が「琉球の歴史と文化」、比嘉政夫琉球大学教授が「沖縄の御嶽（うたき）信仰とその現状」を各八十分づつ講演。御嶽（うたき）とは、山、森など、沖縄の伝統的な信仰聖地の総称。沖縄に古来からあった民間信仰で、神社神道の氏子組織や自然観と極めて類似している。

「琉球の歴史と文化」では、「琉球」「沖縄」という名称の由来や歴史について、「沖縄の御嶽信仰とその現状」では沖縄の伝統的信仰形態の現状について講話された。

慰霊祭に記念植樹も

翌十一日午前十時から、那覇市奥武山町の沖縄県護国神社で本土復帰二十周年記念の慰霊祭が、全国の神青協会員の代表齋員四十二名、伶人十名の奉仕で斎行。これに先立って沖縄で榊の代用とされるイスノキが境内に記念植樹された。気温二十八度、蝉の声も聞こえたこの日、慰霊祭には富岡八幡宮・富岡茂永権宮司が都を代表して奉



仕。祭典では神社音楽協会会員による「御霊なごめ」「浦安の舞」の奉納、君が代奉唱があった。

祭典終了後、神青協・吉川通泰会長は「沖縄の本土復帰二十年、沖縄県の神道青年会が発足して十年といふ記念すべき年に、全国から集まった会員と慰霊祭を行う事が出来た。これを期に、地域社会そして世界平和へと貢献して行きたい」と挨拶した。このあと、各県の戦没者慰霊碑に県毎で参拝した。

阿部会長以下八名の参加者は、来年行われる全国植樹祭の会場予定地である糸満市米須の東京都の慰霊塔に参進。ハイビスカスなど、原色も鮮やかな南島特有の花や神酒を奉って参拝、戦没者を偲んだ。

(服部)

神宮神嘗祭奉拝旅行

都神青会阿部会長が神宮の神嘗祭に祭員として御奉仕された。それにともない、都神青会は、神宮神嘗祭の神事を奉拝する為旅行を企画、実施した。

十月十六日午後東京を出発した都神青会の一行は、副会長二名を始めとして十四名、今井、本橋、両遷宮実行委員のお世話で近鉄、宇治山田に夕刻到着し、伊勢国際ホテルに向かった。

天気も上々で午後八時半頃内宮に着くと、既に奉拝を待つ団体が幾つか集まっていたが、午後九時の参入時間になると宇治橋前はかなり人の数となった。

淨間に包まれた参道を一同整然と奉拝場所に進み、待つ事しばし、いよいよ神嘗祭の神事が始まった。

松明に火が灯され、祭員が齋館より参進して来ると、その中には、阿部会長の姿があるはずだが、いかんせん松明の明かりでは、良く確認できない、一同小声で「何番目が会長だ？」と確認しあっていた。

次第が順次進み、奉拝者の列も祭員の後を追う形で、内宮前迄進

んだが、人垣でまったく中の様子が伺いしれない、暫く様子を伺ってはいたが、ここで奉拝を断念し、大石副会長にならって列拝し内宮を後に、ホテルへ戻った。

一夜明けて、十七日十時にホテルを立って、下宮へ向かい、参拝後、内宮へ向かい、神嘗祭奉弊の神事を奉拝、今度は昼間なので、参進してくる祭員の中に会長の姿がはつきり、少々緊張した面もちだったが、前前日からの参籠による疲れた様子もなく、内宮神門の中へと消えて行った。

暫く神事を奉拝していたが、時間の関係もあり、神門前にて参拝した後、内宮を後にし、昼食会場で昼食を兼ねた懇親会を済ませ、近鉄宇治山田駅に向かい帰路に付いた。



「人の死」テーマに神青協が夏期セミナー開催

神道青年全国協議会（神青協・吉川通泰会長）の夏期セミナーが、九月三日から三日間、神社本庁、山梨県富士吉田市の（財）人材開発センター富士研修所で七十六人が参加しておこなわれた。

今回のテーマは、「神道の死生感を考える—現代人に説ける「死」の觀念の形成を求めて」。神職は死をどう説くのか、神葬儀礼の意義、祖霊社・神葬墓地の問題などについて活発な意見交換された。課題が大きかっただけに全体を通じて討論が問題の解決にまでは行かず、今後継続した論議の場の設定が必要のようだ。

この夏期セミナーは短期間に集中して神道教学の研鑽を図ろうと昭和六十年から始まり、今年で五回目。全国から七十六人の参加があった。

初日の九月三日は、まず神社本庁二階会議室で開催。午後一時からの開会式に続き、宮崎・高千穂神社の後藤俊彦宮司が自らの奉仕体験を踏まえながら「神道の死生感」を講演した。

後藤氏は「人間は死を通して生

の輝きや尊さを知る。神葬祭は死者のための行事であると同時に残された遺族が、その死をどうとらえ、今後どう生きていくのかを考える機会でもある」と語った。

講演終了後、一行はバスで山梨県富士吉田市の人材開発センター富士研修所に移動。午後六時二十分からは國學院大学安蘇谷正彦教授が講義した。

安蘇谷氏は、古事記、日本書紀など神道古典や、本居宣長、平田篤胤ら神道思想家の考えを踏まえ、神道の死生観を語った上で「人間は神の『はからい』によって生まれ、神の『はからい』によって死をむかえる」と述べた。

死後観については「死後靈魂はどこに行くのか、を神道の立場からは定義する必要がないのではな

いか。大切なのはみたま祭で、墓や靈璽、位牌などを通して死者のみたまを拝むこと」とした。二日目は、午前九時からテーマ別に三つの分科会が開かれた。討論は予定の時間を約一時間越えるほど、各分科会とも白熱した討議がなされた。

各分科会の意見発表と報告は同日午後におこなわれた。

「人の死をどう説くのか」の第一分科会では、死をどう語るのか、死後の世界などについてが話し合われ、兵庫・皇大神社の中澤章浩祢宜が「日本人は死後の世界を云々するよりも結局のところ『どう生きるか』に重点を置いていく。神道の死生観を神職は語るべきではないのではなからうか。祭祀の中でみたまの行方をどう表現するのかが重要で、その中で死後の世界は『幽世』とするのが良いと思われ。それは特定の場所ではなく人間の身近に存在している」と報告した。

同分科会では神葬儀礼を中心に神道の死生観の討議が進められたため、「自殺や事故等不慮の事故でなくなった人の葬儀の際に唱える祭詞ではそれについて触れた方が良い」という神葬祭の意義に関連する報告もあった。

「神葬祭の意義について」を話し合った第二分科会は秋田・鶴ヶ崎神社斎藤壽胤祢宜が報告した。

ここでは参加者全員が、神葬祭でおこなう修祓の意義、遷霊祭の意義、靈魂観などについて発表し

たため、各事項についての問題提起発表。参加社全員が「神葬儀礼において修祓は必要」としていたのが印象的だった。

「祖霊社・神葬墓地の問題の第三分科会は、大阪・服部天神社の加藤芳哉祢宜が報告。神葬墓地の造成に關しては「土地がない、地域の反対、衛生法上の問題等で個々の神社で持つのは難しいため、①公共墓地の一区画を神社の連合体が購入し管理する②地方公共団体、寺院などの墓地開発に参画③各神社に前向きに対処してもらおう」との結論が出た、と報告。

祖霊社については「薄れ行く氏子区域の共同体意識を昂めるために各社に祖霊社を建て、みたま祭をおこなうことは有効な教化になる」と報告した。

翌日午前九時から三日間を通して参加した國學院大学・上田賢治教授が各分科会の総括をおこな

い、三日間の研修を終えた。今回のセミナーは、テーマが「死」に關連し、壮大であったため、全体を通して討論が行き届かず、今後、継続した論議の場の設定が求められる。

（服部）

○神明神社で遷座祭

御大典に反対する過激派ゲリラ
によつて罹災された世田谷区船橋
の神明神社(池亀紀文宮司)で、
社殿が復興。七月二日に本殿遷座
祭が斎行された。

同神社では被害があつた平成二
年三月十九日以降、氏子総代・吉
崎義正氏を委員長に約百数十名が
社殿再建委員会を結成。

社殿は平成三年五月に地鎮祭、
昨年三月の上棟祭に続き、六月に
竣工した。遷座祭は午後七時から、
東京都神社庁世田谷支部、同青年
会会員ら約十名の奉仕で行われ、
都神青会・阿部会長が玉串を奉典
した。

日中、一時強く降っていた雨も
上がり、祭典を見守つた氏子ら約
百名からは、「これで私たちの心の
よりどころが戻ってきた」との声
も聞かれた。

新しく出来上がった社殿は、敷
地面積約二十八坪、鉄筋コンクリー
ト一部木造の神明造りで、総工費
は一億八千万円。祭典終了後、換
拶に立った吉崎建設委員長は、「神
社関係者氏子の方々のご献金をもつ
て新しい社殿が御復興しました。

今後共、なお一層の御協力を」
と述べた。 服部

○パソコン講座(三)

《パソコン言いたい放題》

猿江神社宮司 神保 恵一

「こ、これはすごい……すべて
はこの独り言から始まった。

友達の指がキーボードの上でせ
わしなく動くと、それに応えるか
のように、ディスプレイの画面が
矢継ぎ早にかわつていった。

私は呆然と眺めながら思わず咳
いたのだった。

新しもの好きの私は、以前から
ワープロは使っていたものの、パ
ソコンに関しては今一つためらつ
ていました。

『高価なソフトを使うとすごい
仕事が出来るといいが、大きな会
社でしか使えない正体のつかめな
い奇妙な箱』これがそれまでのパ
ソコンについての印象だったので
すから。

しかしその奇妙な箱は、使つて
みるとけっこう面白い箱らしいと
解りました。

同じコンピュータでも、ワープロ
には内蔵されている機能をパソ
コンではソフトという形で別途に

購入しなければなりません。(けつ
こう高額です)逆にワープロには
無い『面白いソフト』を選べると
いう利点にもなります。

さて、ほとんど衝動買いで購入
したパソコン、前に座つてみると
初心者にはとても威圧的です。

横文字の書いてあるキーボード
は、何のときにどーしたらいいの
かさっぱり解らない(ソフトによつ
て使うキーが違うので、その説明
書を読まなければ解るわけない)
印刷をするにも設定がめんどくさ
い。

MS-DOSとかいうソフトが
ないと、ほとんどのソフトは使え
ない等々。

ならばMS-DOSとは何ぞや
と調べてみると、ディスプレイの
画面が暗号みたいな横文字で埋め
尽くされてしまふ、いかにコン
ピューターらしい映像だけれども
初心者はお手上げ、蛇に睨
まれた蛙のように、ディスプレイ
の前で呆然とするしかないのです。

しかしとりあえずは、この恐ろ
しい光景をみなくてもコンピュ
ターは使えます。

気をとり直して、ワープロ・表
計算・データベース等を必要な順

番にひとつずつ覚えませす。もしく
は全部一通り入っている『統合ソ
フト』を使うのも良いでしょう。
ソフトにはいろいろな種類があ
るのですが、始末の悪いことに買
てみなければどんな内容だか判ら
ないのです。

ここはひとつ身近な経験者が実
際に使用しているものを選んで、
どうしても解らなくなつたら、そ
のつど聞くのがいいと思います。
たとえば過日のパソコン講座の
とき、少し古い機種のパソコンを
持っていたM君に尋ねてみると、
解らない時は何時でも聞けるとい
う条件で、或るパソコン熟練者か
ら、ソフトと一緒に安く譲り受け
たというのです。

初心者にはこの状況がベストで
す。さもなければ何百ページもある
説明書を最初から読まなければな
りませんから。

データベース等は自分の職業や
目的に合う、使い易い形に内容を
構築する必要があります。

その点今回の講師である小俣氏
の考えぬかれた内容が詰まってい
るソフトは、同職でしか解らぬ細
かい点にまで目が行き届いて、キー

を押す度に出席者の感嘆の声を浴びていました。

しかし、ひとつ心配した事は今回使われたこのソフトが、初めからこの形で販売されていると勘違いしている方が居たことです。

何十万円もだして特注するならともかく、そんなうまい話は絶対ありません。

だから初心者には身近な経験者が一番必要なのです。

居なければ捜し出して無理やりにでもお友達になりましょう、必ずやあなたの味方になってくれるはずですよ。

短気な私は、文章を作成中にあまりにも誤変換が多いことに腹を立て、思わずキーボードを叩いて危うく壊しかけたことがあります。

こういう場合は「ユーザー辞書」という機能を使い、予め単語を登録しておくものなのです。

特に神社関係は特殊な読み方や漢字が多いので、これを使わない手はありません、或る官司さんなどは、いきなり祭式教本や神社の縁起を打ち込んで専門用語を登録しまくったそうです。

キーボードの文字配列は覚えるし、一石二鳥の方法かもしれませ

ん。しかし当時の私はそこまで気が付くはずもなく混乱の極致でした、嗚呼あさはかな私。

ところで前述した面白いソフトですが、私は「命名支援」や「四柱推命」などのソフトを持っています。

これはイベント用の簡単なものから十分実用に堪えるプロ用のものまであり、使ってみるとなかなか快適です、漢字を入力するだけで即座に画数陰陽まで表れる「命名支援」ソフトは、画数をそれぞれの数え方に替えることも可能で、場合によっては推奨する漢字までもが一覧出来ます。

ここまでの作業が一瞬で出来た後、各々の方法でじっくり命名をされては如何でしょうか。だいぶ時間の短縮になると思います。

「奇妙な箱」であるパソコンは、使い方によって「すばらしい箱」になり色々な技もこなします。

しかしそのためにはかなりの努力を強いられることも事実です。初心者用のパソコンなど無いのですから。

さあ！あなたも楽しい苦勞をしましょう。

手作りでリアカーを!!

荻窪八幡神社

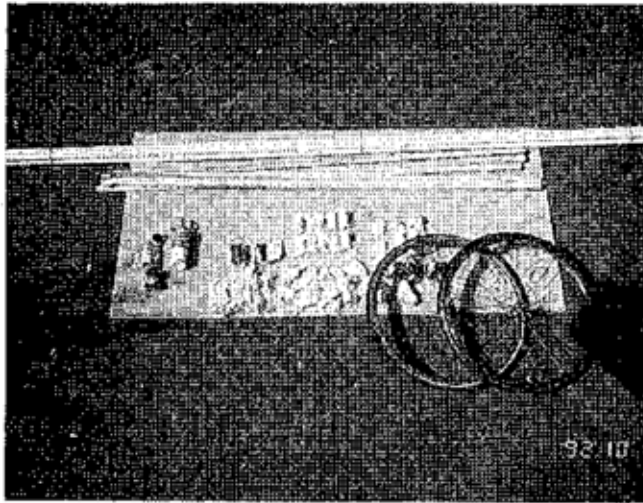
権柄宜 小俣文弘

私の奉仕する神社では、樹木に樺が多いので、毎年秋になると、その落ち葉の量はかなりのものとなります。

十年ほど前は、竹で編んだ大きな背負い籠で掃きためた落ち葉を集め、焼却していましたが、取り集めるのに大変時間が掛かってしまします。また丁度七五三の頃と落ち葉の季節が重なり、境内の清掃が終わる前にお祓を受けに來られてしまい、忙しい思いをさせられました。

掃き集める事は時間の節約が出来ない、ならば、集める時間が合理化出来ないだろうか？と思い、市販のリアカーを購入する事にしよう、近所の自転車屋に行き話を聞くと、受注生産になるので、二十万円くらいは掛かると言われ購入を断念しました。

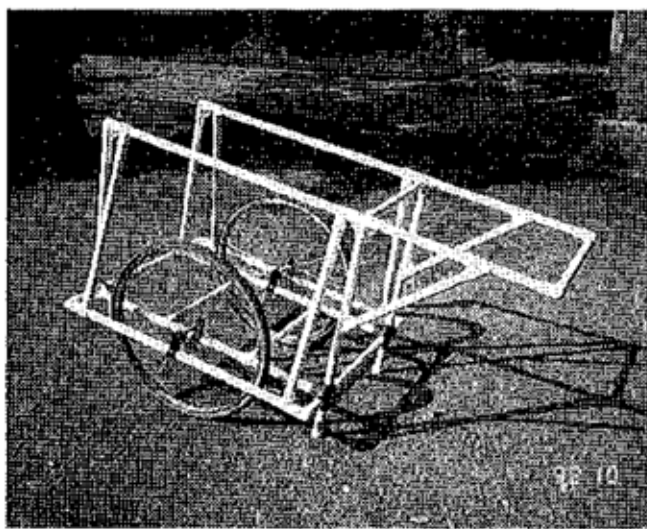
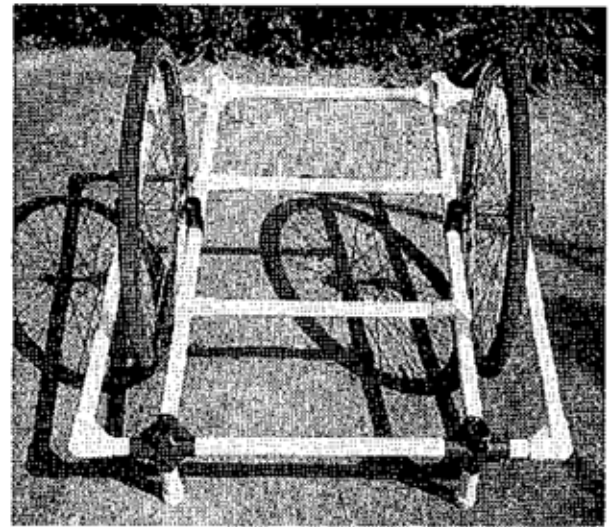
何か他に変わる良いものが無いかとD・I・Yの店に行った所、イレクターパイプ「ヤザキ製」



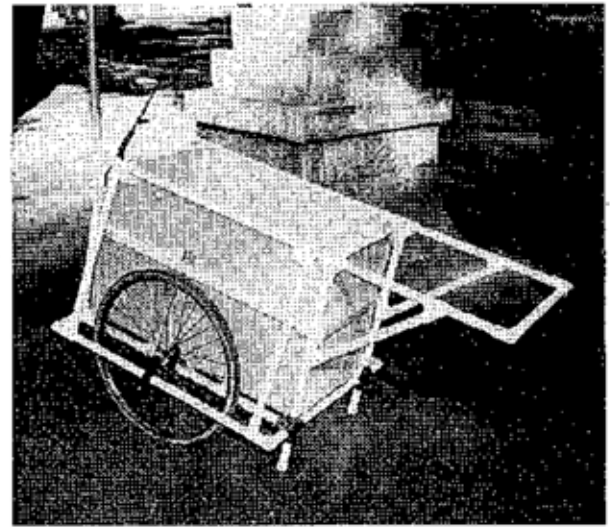
というのがあり、ジョイントはプラスチック製ですが色々な形にパイプを繋ぐことが出来ます。
 これだ!!と思ひ早速簡単な設計図を作り材料を買い揃えました。
 パイプが十数メートル、ジョイント各種、タイヤは自転車の前輪二本、倉庫に転がっていたものを利用、後は落ち葉等をいれる箱部分のベニア板を数枚、材木数メートル、パイプの接着剤と木工ボンド以上で早速制作に取り掛かりました。

まず、収納場所をきめてそこに出入り出来る大きさでリアカーの全体の大きさを決定します。
 勝手口が幅九十センチ、これよ

り幅は小さく、八十センチに決めました。高さは自分で持ち易い八十五センチ。幅と高さのバランスで長さが九十センチ、取っ手の部分が箱部分から四十センチ(これは自分で引いてみて踵が当たらない長さ)と決めました。
 最初にリアカーのタイヤ取付部箱の床に当たる部分を作ります。
 タイヤ取付部だけは金属製のジョイントを利用しました。(タイヤは二十〜二十四インチ位が使いやすそうです)これに車軸の大きさの取付穴を開けます電気ドリルで開けリマーで広げます、この作業がいちばん大変でした。(タイヤの大きさ、使い勝手で車軸取付のジョイントの上下を決めると良い)タ



イヤ一本を二本の同じ長さのパイプで支えます(箱部分の横の長さ)これに幅の長さのパイプ二本で前後を繋ぎ(タイヤの内側のパイプと繋ぐジョイントの形と上下の向きに注意)四角く作った枠にタイヤが着いた形になります。これに高さに切ったパイプ四本を接着します。これに上部の取っ手部分と箱のコの字の部分のパイプを繋ぎます。
 これでリアカーの枠組みは出来ました。後はベニアで箱部分を作ります。床、横二枚、背中部分に合わせて切ったベニアを当て、内側に材木で枠をいれこれに外側から木ネジで止めて行きます。



このときに出来上がったフレームにジョイントパーツを取付、ジョイント、ベニア、内部の木枠の三つを共に止めます。リアカー上部の木枠の無い部分は、四×十五〜二十位のボルト、ナットでベニアを止めます。これで出来上がりですが、左右の上部と下部に斜めに二本づつ補強のパイプを入れると丈夫です。

パイプ自体は九十センチで百キロの加重に耐えるそうです。箱部分のベニアは三ミリ耐水ベニアを使いました。厚さが増せば丈夫ですが、重たくなります。当社では、落ち葉だけで無く、灯油等の運搬に使いますが、二十リットル入りタンク五つは積んでも平気でした。

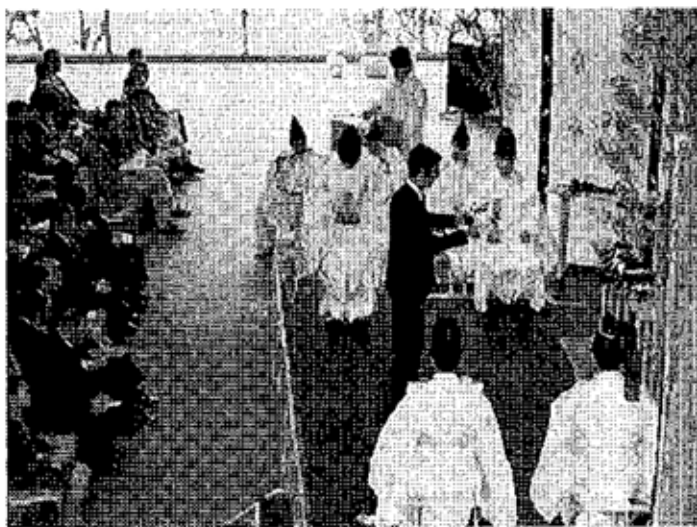
〇都氏青創立二十五周年

記念式典開催

晴天に恵まれた隅田川沿いのすみだリバーサイドホールにて、九月二十三日秋分の日、都氏青創立二十五周年記念「神社関係者の集い」が開催されました。

都内各神社の氏青会を始め氏青未結成の一般神社からも多数のご出席を戴き、約二百名の盛大な大会となりました。

先ず、山口議長の齋主のもと八名の神青会有志の奉仕によって物故者慰霊祭が厳粛に斎行され、各単位会の先人の御霊をお慰めしま



した。式典では都氏青林会長、神青阿部会長の挨拶の後、氏青活動に尽力された四十五名の功績を讃えて記念表彰が行われました。

そして修養団伊勢青少年研修センター所長、中山靖雄氏の記念講演の後、懇親会となり、盛会裏に幕を閉じました。

尚、当日はお忙しい中、慰霊祭奉仕を始め受付・会場設営などに神青会員の皆様多数のお手伝いをいただき、誠に有り難うございました。紙面をお借りしまして深く御礼を申し上げます。(神保)

〇神青協関東地区総会

六月二、三日、千葉県勝浦ホテル三日月に於いて、第四十三回神青協一都七県関東地区総会が、開催された。

会員七十九名が参加、当番県である千葉県神道青年協議会の司会進行により進められ、午後一時からの総会では、各単位会が事業報告を行った後、地区としての、「決議」、「宣言」が採択された。

決議

冷戦構造の変革に伴なふ内外情勢の中にあつて、我々は、ここに

平成四年度総会を迎えた。

この時勢の動向する中で、我々神道青年会は、伝統精神を培ひ、若さと英知を結集し、国民精神昂揚の担い手として勇躍邁進する事を誓ひ、左を實踐する。

宣言

一、神青協の子供ぬりえ大会の積極的参加、お白石持ち行事の奉仕団結成、等、第六十一回神宮式年遷宮啓蒙活動に挺身する。
一、国民精神昂揚運動を推進する。

午後三時二十分から行われた記念講演では、大正大学、藤井三雄教授を講師に迎え、「現代社会と葬送儀礼」についての講演が行われ、産業化されつつある葬儀の現状と、今後の神職の課題について有意義な内容の話が展開された。午後六時から懇親会に移り、近隣他県の会員との交流を深めながら、和やかな一時を過ごす事が出来た。東京からの参加者は左記の通り
阿部明德、山口直英、篠直嗣、齋藤博明、齋藤明比古、富岡茂永、石川正典、齋藤成彰。
次回の総会は茨城県が当番で、開催される。(富岡)

○神道行法鍊成研修会

神青会恒例の神道行法鍊成会は、七月十五・十六両日、御岳山・麻知屋（服部宮司宅）に於いて開催されました。

今回は斎藤直孝先生と篠直嗣先生、二名の助彦の御指導の下に二十九名の参加者を得て厳正なる鍊成が執り行われました。

二日間とも雨天に見舞われましたが、不思議にも一同がお滝に向かうと雨は小康状態となり、これも精進齋の賜物と、勇んでぬかるむ山路に健脚を競い、「綾広の滝」の身を切るが如き冷たい水で俗塵を清める事が出来ました。

また、講話の講師としてお招きしました中川正光先生の赤誠溢れるお話は襖祓の真義に迫り、参加者一同その情熱に大いに啓発される物があり、更には助彦の先生方により石上神宮秘伝の鎮魂行法が紹介され緊張の一日はあっという間に過ぎ十時に各自床に就きました。

翌早朝は中川先生も率先お滝に入られ、八十四才と承るお年を感じさせない見事な襖を指導されました。

続いて衣を改め御岳神社へ参拝し宝物殿にて国宝赤糸威大鎧を拝観させていただき二日間に渡る研修を無事終えました。

最後に懇親会が催され阿部会長の「この襖で得たものを日々の御奉仕に是非活かして下さい」という言葉を胸に各自下山致しました。

研修表彰者並参加者・敬称略

*十回参加表彰者・本橋宣彦

本橋氏には記念の楯が贈られた。

*参加者・山田尚史・小俣文弘

阿部明德・松本 仁・神谷裕昭

本橋宣彦・清水祥彦・戸部広之

小俣 章・石川正典・川島宏一

青山昭彦・大野定好・村上秀紀

小松春義・奥野雅司・中神孝之

弓野修一・大竹正芳・半田裕明

丹羽百年・山内 学・奥村孝太郎

鈴木信忠・栗原健人・角井 瑞

田中秀治・藤ヶ谷栄二・大橋知也

以上二十九名 (清水)



○相談役会

平成四年七月七日（火）午後七時より原宿「南国酒家」において、「東京都神道青年会相談役会」が行われ、阿部青年会会長をはじめ十名の相談役十余名の青年会役員が出席致しました。

山口議長の司会のもと、会長挨拶に引き続き川合先輩挨拶、そして各部の事業報告・経過報告の後、小泉先輩の乾杯にて懇親会に移りました。

又、それぞれの先輩方より貴重なお意見もいただき、非常に有意義な一時でした。

最後に大村先輩の中締めにより閉会となりましたが、皆さん始終和やかな雰囲気七夕の一夜を楽しく過ごされた様子でした。(中島)



○東京都神道青年会

ボーリング大会開催される

去る七月二十八日、東京都神道青年会（阿部明徳会長）主催により、芝ボーリングセンターに於てボーリング大会が開催され、会員及びOBまた会員の家族ら計二十七名が参加した。

試合はすべて個人戦で行われ、三ゲームの合計得点にて競われた。一位の松岡会員（港区）は、「笏より重いものは持った事がないから…」などと弱音をなく男子参加者を尻目に、合計五百三十三ピン（ハンデ五十ピン）をなぎ倒し、群を抜く強さで見事優勝を飾った。

また、試合後の懇親会には参加者全員が出席し親睦を深めた。

(岩崎)



○第5回教養講座

第五回教養講座は十一月四日講師に國學院大学講師石井研士氏を迎え、「都市化と神社」をテーマに開かれました。石井氏は現在、様々な神社にアンケートを依頼し、その資料をもとに同テーマにて考察中とのこと。寺院の実態もまじえながら熱く話されました。

「都市化の進行に伴い、宗教の果たす役割は減少する」という欧米の学説は日本に当てはまらないとされていますが、石井氏はこれに疑問を投げかけます。会社の内に神棚があったり、初詣が盛んだったりしても、果たしてそれは「生きていく宗教」と言えるのでしょうか。そもそも神社神道の基盤となっている氏は今どう変化しているのか。石井氏は例として、高層化し檀家と離れていく寺院の実態をあげ、「経済的基盤が確立し、布教をしなくても暮らして行ける状態になった時、寺は檀家と離れていく」事をあげ、近年、特に都心の神社にビル化が進んでる現状を憂っていました。

「神社・寺院が建てたビルと普通のビルとでは外観上全く区別が

つかない。この先、子供達がこれが○神社だと教わった時にどう思うだろうか。ビル化も悪い事ではないが、もっと違った建築様式があるのでは」との御指摘に耳がいたい講座でした。(八木)



○健康診断

去る十月八日、神社庁に於いて東京都神社庁と神道青年会の協賛により健康診断が行われた。

今回で八回目を迎え、男性五十三名、女性九名の計六十二名が参加した。(昨年は五十八名)

北品川総合病院の先生方による身長計測に始まり、バリウムを使用した胃部レントゲンまで、約一時間半の諸検査が順次実施された。他の人より検査時間が長いと、「異常箇所が見つかったかな。」と不安

に駆られたり「バリウムを胃の中に入れるのは、以前に比べてずっと楽になったな。」と変な所で医学の進歩を感じていた諸兄であった。また、昨夕以来食べ物、飲物を口にしていなかったせい、検査終了後に出された、サンドイッチお握りがとても美味しく感じられた。この健康診断は、毎年実施されます。年に一度自分の健康状態を確認するのに良い機会であり、受診料も一万円と安くっておりますので、今回受診されなかった方も来年は是非御参加されますよう、お勧め致します。尚、今回の健康診断に対するアンケートの結果は以下の通りです。(渡辺)



今回の健康診断に対する

アンケート結果

今回の健康診断に参加	13・0%
無解答	44・5%
他で健康診断を受けている	38・8%
社務等の理由で参加出来ない	2・3%
諸般の事情のため参加出来ない	0・6%
場所が遠い	0・2%
健康に自信が有る	0・6%

○神青協役員懇親会

去る九月二日、神青協(吉川会長)の役員会が本社本庁にて行われ、その後、都青年会の主管により屋形船での懇親会が催された。

午後六時、全国各地より神青協役員各位二十余名が、深川に集合し、お台場方面に向け出航、各位共初めての屋形船での会とあって、何やら希望と不安に満ちた様子であった。

都青年会からは、役員委員十余名が参加し、東京の夜景を眺めながら懇談に花を咲かせていた。各位共、楽しい時間を満喫されたよう、正に充分鋭気を養って頂いたものと伺えた。

午後八時過ぎ、深川に戻りめでたく懇親会を終了した。

(篠)

○家族懇親会 (屋形船)

去る、八月十日青年会恒例の、屋形船による家族懇親会が開催された。例によって、富岡八幡宮神輿庫前に集合し屋形船富士丸に乗り込んだ。一行は今回は神奈川神青からの参加者三名を含み四十二名もの参加であった。聞くところによると神奈川県には、釣り船は有っても屋形船は無いのだそうである。



舟に乗り込むと、早速料理が出て、それに舌鼓を打っていると直にお台場付近へと進んで停泊した。和気合い合いの歓談が進んで、これも恒例の、ビンゴゲームが始まった。一等賞は港区瀧夫人二等賞はご主人の瀧君、一同は出来過ぎの結果に喝采やら罵声やらで大騒ぎ。

ゲームが終わると、一等の瀧夫人へのカラオケラブコール、夫人自慢の喉を披露し、一同聞き入っていた。そのままカラオケ大会に進み子供たちは、舟の前の方を陣取り数名のご夫人方と昔なつかしいカゴメカゴメ、花いちもんめなどの遊びにはしゃいでいる内にあつという間に舟は深川に戻って楽しかった懇親会もお開きとなった。(小俣)

○忘年旅行会

十一月二十五・二十六日に神道青年会恒例の忘年会が、箱根湯本は河鹿荘にて、開催された。



参加者は三十八名とやや少な目ではあったが、今回は諸先輩方の参加が多くいつものように盛大に執り行われた。

一風呂浴びてさっぱりした所で

篠総務部長の堅い司会で始められ、先づ、阿部会長の挨拶、次いで、小泉朋昭先輩の祝辞、乾杯の音頭は山内温先輩にお願いし、酒宴に入った。二次会・三次会と進む内先輩後輩入り乱れて懇親の輪が広がり箱根の夜はなかなか更けない様子であった。(小俣)

☆広報部より一言

あまり広報活動に参加出来なく、部長が大変だったと思いますが、毎号頁が多く充実した二年間だったと感じます。次期の広報部員には更なる活動を展開して頂きたいと思ひます。

長い間ご迷惑をお掛けした皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

部長さんご苦労さまでした。二年間楽しい想いをさせて戴き有り難う御座いました。

よく遊びよく遊びよく学びの二年間でした。

何も出来ませんでした。ドーマス イマセン。

あつと言う間の二年間でした楽しくもあり又勉強になりました。

汗と涙と酒の広報活動でした。

今号で今期の広報部の「やくわえ」は最後になります。今期は、年二回の発行を確実に行う事をまず第一の目標として、活動して参りましたが、内容的には自信がございました。参考として「やくわえ」の復版を参考にして過去で良かった物等は復活して行こう、また、部員の方の意見を活かそうと、この二年間活動してききましたが、出来上がった各号を改めて見ますとまだまだと言ふ想いが残ります。

ご愛読戴いた諸兄には心より感謝致しますと共にご意見等有れば次期の広報部に申し送りたいと思ひますので広報部までご連絡下さい。最後に成りましたが、ご意見等頂いた諸先輩を始め記事の取材、発送等で御協力頂いた各役員委員の方々に、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

広報部部长小俣文弘

平成五年一月一日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二―二―三
東京都神道社庁内
電話 三四〇四―六五二五(代)